

# ことばと親子交流に関する研究

後藤ヨシ子\*・森岡麻衣子\*

(平成16年10月29日受理)

A Study on Language and Parent-Child Interactions

Yoshiko GOTO\*, Maiko MORIOKA\*

(Received October 29, 2004)

## はじめに

親子は、まだことばがあらわれてくるはるか前の段階であっても、目と目があって微笑み合うだけで、何か通じ合えた気分になれる。親子の触れ合いは、この非言語的な水準ではあっても、気持ちの交流や意図の交流が次第にでき、およそ一歳頃にはことばを発し、同時に子どもはことばを通じて、新しい事物を知り、自分の要求や意志、感情などを表現することができるようになる。このような親子の触れ合いは、心の絆の形成や相互理解を深め信頼関係を築き、強化していくと考えられる。親子の交流において、身振りや表情、音調などの非言語も大事なメッセージを伝えるが、その正確性と内容の豊富さではことばを媒体とするコミュニケーションが基本である。私たちの心は、ことばによって構築されている。論理的な思考だけでなく、内面からふつふつと沸き上がってくるかのような感情さえも、ことばを用いて的確に表現する能力をもっていなければ、他人の喜びや苦しみを的確に受容する能力も持ちえない、他者への共鳴や共感もまたことばを媒介にしておこなわれている。

今日「親のことばが子どもに通じない」、「親の言っていることがどうして伝わらないのか」と親のあせりやいらいらがある。日常親は子どもに様々な希望や願いをもってことばを送るが、受け手の子どもの抱く感情の種類や程度により、親の思いがストレートに伝わらず、歪みを生じることも、また受け手に相反する二つのメッセージを送ることもある。

今回は、親子コミュニケーションにおいて、日常親はどのようなことばを子どもに送り、受けての子どもにどのよう響き伝わり、心の育ちや人との絆の形成につながっているか、ことばのもつ心の育ちに及ぼす効果について考察した。

## 研究方法

対象は大学生1～3年次生308名。調査内容は小学生の頃の親子コミュニケーションにおけることばを中心とする項目について、質問紙法と自由記述法により回答をえた。

---

\* 長崎大学教育学部家政教育

実施時期は2000年9月と2004年10月である。

## 研究結果

小学生の頃、親から言われたことばに対し、受け手の子どもの心を自由記述法により、ことばで記述してもらった。ことばとして同じ意味である場合、また似ていることばは同じグループとし分類した。

### 1. 小学生の頃、親から言われたことば

#### 1) やる気がでた親のことば

親は子どもにやる気をださせようと期待し働きかける。多くの親は自分の期待する方向(勉強, 学校, 社会適応する)や評価にあったやる気のあらわれには大いに感激するが, そうでない方向(テレビゲーム, 漫画を読むなど)での意欲のあらわれには殆ど関心を示さない, 無視する。親は知らず知らずのうちに子どものやる気を自分の期待や評価にあった方向に持っていきこうと操作している(この親の思いは, 操作的期待と呼ばれている)。

そこで小学生の頃, 親はどのようなことばを子どもに投げかけ, やる気をださせていたか, 子どもがやる気がでたと受けとめたことばで最も多かったのは, 「①応援(頑張るなさい, 応援しているよ) 33.0%」である。次いで「②頑張り・努力が認められた(頑張ったね, よくやったね, よくできた, やればできるじゃない, 頑張ったかいがあったね) 27.6%」, そして「③信じてもらえる(あなたならできる, 自分を信じて, やればできるよ) 12.7%」, 「④ほめられる(すごいね, さすが, 何でもできるね, お利口, 上手だね) 12.7%」, 「⑤心がけを述べられる(何でもいいからやってみなさい, 精一杯ベストつくしなさい, やれるだけやってみよう, 思いどおりにやっごらん, 気楽にやりなさい) 10.4%」, 「⑥教訓(今頑張れば後で結果がでるよ, 努力すれば報われるよ, 苦しいときこそ学ぶことが多いのよ) 3.6%」の順であった(図1)。

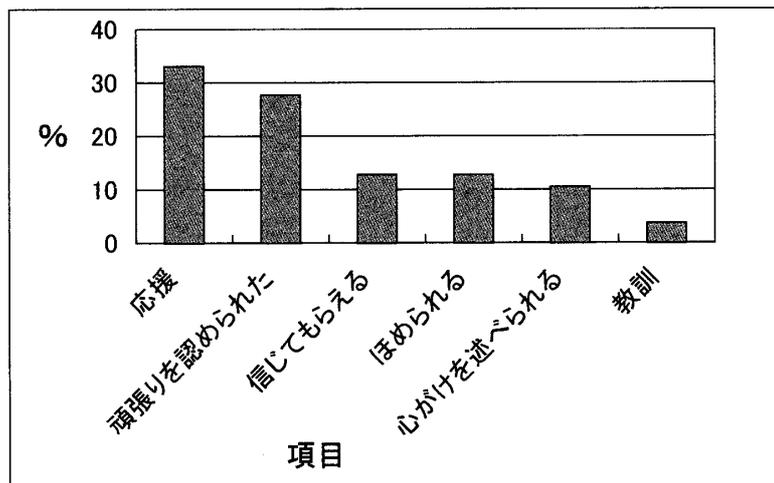


図1 やる気がでた親のことば

#### 2) やる気をなくさせた親のことば

一方子どもがやる気をなくした親からのことばは何か。最も多かったことばは, 「①勉強についての催促(勉強しなさい, 勉強してんの, まだ勉強せんの) 26.4%」, 「①見放すことば(勝手にやりなさい, 好きにすれば, 何回いえばいいの, だめだこりゃ, もうしな

くてもいい，無理・無駄ね) 26.4%」，次いで「③中傷ことば(だめな子，ばか) 11.0%」，「④早くしなさい(早く，早くしなさい) 9.8%」，そして「⑤さらなる事を望む(もっとしなさい，頑張りなさい，まだまだ) 9.2%」，「⑥見下したことば(そんなこともできないの，何やっても続かないね，同じだからしないほうがまし，やっても同じね) 5.5%」，「⑦誰かと比較する(〇〇ちゃんはもっとよくできてた) 4.9%」「⑦どうせ(どうせできない，どうせおまえなんか) 4.9%」「⑨禁止(だめ) 1.8%」の順であった(図2)。

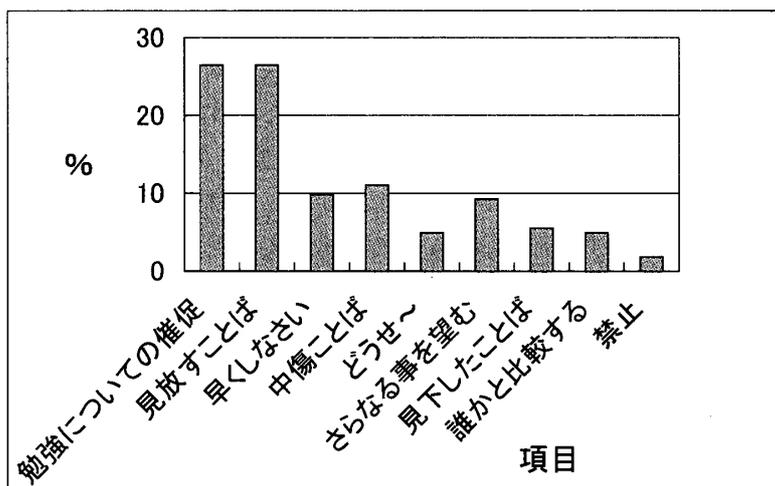


図2 やる気をなくさせた親のことば

3) 腹がたった親のことば

子どもは親の気持ちを瞬時に察知し，自分の示したかすかな意欲を抑えて，少しでも親の意向に応えようと努力することはできても，その心は穏やかではなく怒りを覚える。子どもが腹がたったことばとして挙げたことばは，上述の「やる気をなくしたことば」と同じ内容であった。順位は若干異なっているが，最も多かったのは，①見放すことば28.2%，次いで②誰かと比較する17.0%，そして③中傷ことば15.6%，④勉強についての催促11.9%，⑤どうせ8.9%，⑥見くびることば7.4%，⑦さらなることを望む6.7%，⑧早くしなさい4.4%の順であった。やる気をなくすことばと怒りを覚える腹のたつことばは，殆ど共通しているといえる(図3)。

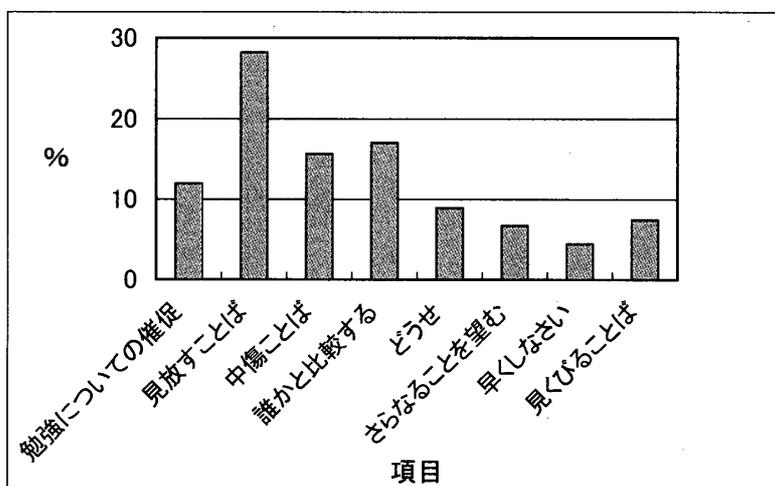


図3 腹がたった親のことば

#### 4) 自分は愛されていると思った親のことば

親の胸に抱かれ温かい眼差しを注がれて、子どもは親が自分を愛してもらっていることを感じる。それは出生の瞬間から、いや胎内にいる時からすでに親の愛情を必要としている。どんなに大きくなっても親との温かい触れ合いを子どもは必要としており、愛されることによって、人を愛することを学んでいく。愛情はことばや態度にあらわれ、子どもはそれを敏感に感じ取る。愛は、子どもを認め、信じ、思いやることの3つの柱がある。そして子どもの短所を含め全存在、まるごとを受け入れ愛することにある。

そこで、親はどのようなことばで愛情を子どもに伝えているのか、最も多かったことばは、「①愛している（愛している、うちの子でよかった、生まれてくれてよかった、大切な宝物、いつもあなたのことを一番に思っている、可愛いかね）35.9%」であった。次いで「②信じている（信じているよ、大丈夫できるよ、あなたならできる、自分で決めていいよ）20.1%」、そして「③味方（何があっても味方だから、いつも応援しているよ、うちの子が一番、あんたは一人じゃないよ）18.5%」、「④大切にしている（一番大切よ、何だっけてしてやる）14.7%」、「⑤心配している（心配したよ、元気にしているね）10.9%」の順であった（図4）。

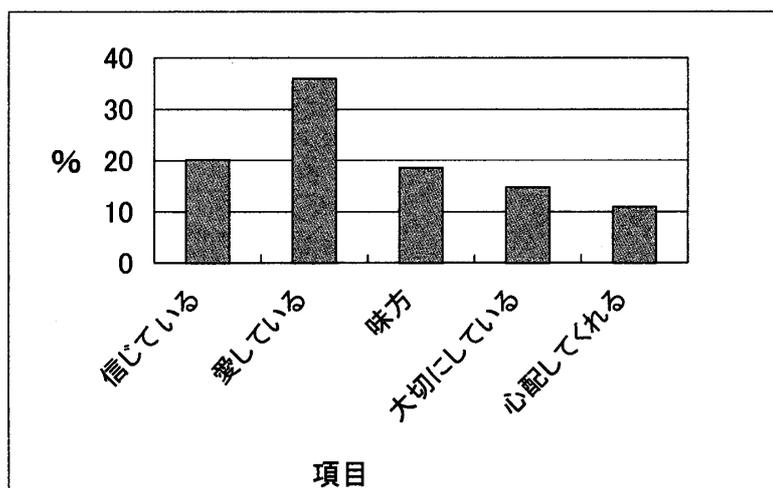


図4 自分は愛されていると思った親のことば

## 2. ほめられた時・叱られた時、親からのことばや行動

### 1) ほめられた時、親からしてもらったこと

親からのほめことばは、子どもの心の栄養となる。子どもは自分は認められ愛されているのだと感じる。親の温かい愛情表現のひとつとして、子どもの健全な自我形成に欠かすことができない。成し遂げたことだけでなく、意欲もほめれば困難にであったとき、乗り越えていく心の強い支えとなる。

そこで子どもの頃、ほめられた時どんなことばが「うれしかった」か、親からのことばでは、「①頑張ったね(33.3%)」が最も多い。そして「②すごいね (15.3%)」、「③さすが自慢の子(9.0%)」、「④えらいね(7.2%)」、「⑤やればできる(7.2%)」、他に「ありがとう」(6.3%)、「とても上手よ(5.4%)」、「いい子だった(5.4%)」、「よくできたね(4.5%)」、「よくやった(2.7%)」、「よかったね(2.7%)」、「おめでとう(0.9%)」であった。

そして親から具体的にしてもらったことについて質問紙法により回答をもとめた。父親

からは「いい子だったなどことばでほめてもらう」(65.3%)が最も多かった。次いで「お菓子やおもちゃを買ってくれる」(32.5%)、そして「おこづかいをくれる」(29.5%)であり、一方 母親からは「いい子だったなどことばでほめてもらう」(65.6%)は、父親と同じく最も多かったが、次いで「おいしいものをつくってもらう」(38.6%)、「抱きしめたり、キスをしてもらう」(17.2%)であり、父親とは異なっていた。ことばでほめることは重視されている反面、スキンシップを伴ったほめ方は意外と少ないことが伺えた。また「おこづかい」や「お菓子やおもちゃ」といった物質的なほめ方は母親よりも父親の方が多い(表1)。

表1 ほめられた時、親からしてもらったこと (%)

|                      | 父 親        | 母 親        |
|----------------------|------------|------------|
| 「いい子だった」などことばでほめてもらう | 201 (65.3) | 202 (65.6) |
| 抱きしめたり、キスをしてもらう      | 26 ( 8.4)  | 53 (17.2)  |
| お菓子やおもちゃを買ってくれる      | 100 (32.5) | 48 (15.6)  |
| おこづかいをくれる            | 91 (29.5)  | 43 (14.0)  |
| おいしいものをつくってもらう       | 8 ( 2.6)   | 119 (38.6) |
| その他                  | 71 (23.1)  | 53 (17.2)  |

(複数回答)

## 2) 将来親の立場になった時、ほめる時に子どもにしてあげたいこと

将来、自分が親の立場になった時、ほめる時に子どもにしてあげたいことは何か、最も多かったのは「①いい子だったなどことばでほめてあげる」(74.4%)であった。子どもの頃、親からしてもらったことと同じであることがわかる。次いで「②抱きしめたり、キスしてあげる」(51.6%)である。上述の子どもの頃、親からしてもらったことの少なさとはいかに異なり、将来自分が親になった時、2人に1人は子どもを「抱きしめたり、キスしてあげる」と答えていた。ことばでのほめ方と共にスキンシップをもって子どもに親の思い(愛情表現)を伝えたいという考えをもっていることがわかる。

## 3) 叱られた時、親からのことばや行動

親として子どもに善悪の判断を教えること、人への迷惑を理解させることはとても大切なことである。しかし子どもが真に理解できるまでには長い時間を必要とする内容でもある。子どもが何か悪い事をした時の対応は子どもの心に与える影響は大きい。つい親は怒り、悪いと決めつけてしまいがちである。そして子どもを責め、叱りすぎると子どもは自信を失ない、自分をだめな人間だと思うようになってしまうことにもなりかねない。

そこで親からのことばで子どもが「とても悲しくなった」ことばは何か、多い順に「①出て行きなさい(23.8%)」、「②もう知らん(22.2%)」、「③どこへでもいきなさい(15.9%)」が上位3位である。そして「④だめな子(6.3%)」、「⑤こんな子どもに育てたつもりはない(6.3%)」、他に「そんな子は嫌い(4.8%)」、「よその子にならんね(4.8%)」、「考えが甘い(4.8%)」、「お母さん悲しいよ(4.8%)」、「よその子がうらやましい(3.2%)」、「お姉(兄)ちゃんなんだから(1.6%)」、「ひとりで生きていきなさい(1.6%)」であった。

そして叱られた時、親からのことばや行動について質問紙法により回答をもとめた。父親から最も多いのは「大声でどなられた」(74.4%)であった。次いで「たたかれた」

(54.5%), 「閉じ込められた」(20.1%)の順であり, 一方母親からも父親と同じく「大声でどなられた」(62.0%), 次いで「たたかれた」(48.7%)であった。しかし3位は父親とは異なり母親からは「おもちゃやお菓子をとりあげられた」(22.1%)であった。また「無視する」は母親(20.1%)の方が父親(10.4%)に比し割合は高くみられた(表2)。

表2 叱られた時、親からのことばや行動 (%)

|                  | 父 親        | 母 親        |
|------------------|------------|------------|
| 閉じ込められた          | 52 (20.1)  | 61 (19.8)  |
| たたかれた            | 168 (54.5) | 150 (48.7) |
| 大声でどなられた         | 229 (74.4) | 191 (62.0) |
| テレビを禁じられた        | 33 (10.7)  | 35 (11.4)  |
| 嫌いだといわれた         | 7 ( 2.3)   | 21 ( 6.8)  |
| 友達と遊べない          | 17 ( 5.5)  | 15 ( 4.9)  |
| むちを出す            | 1 ( 0.3)   | 1 ( 0.3)   |
| 無視               | 32 (10.4)  | 62 (20.1)  |
| おもちゃやお菓子をとりあげられた | 26 ( 8.4)  | 68 (22.1)  |
| その他              | 55 (17.9)  | 50 (16.2)  |

(複数回答)

#### 4) 叱られ方で一番嫌だった親のことばや行動

子どもの頃、叱られ方で一番嫌だったことは、父親、母親から「大声でどなられた(父親33.6%), (母親27.2%)」こと、次に「たたかれた(父親32.8%), (母親22.9%)」こと、そして「無視される(父親9.8%), (母親22.1%)」を挙げていた。これらは両親間には若干割合の相違はあるが、叱られ方のことばや行動について特に子どもは嫌だと受けとめていることである(図5)。

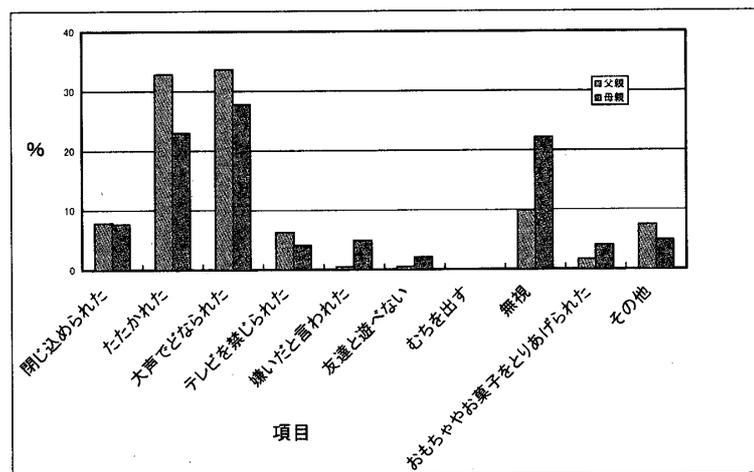


図5 叱られ方で一番嫌だった親のことばや行動

### 3. 親のことばはどのような子どもの心を育むだろうか

親が送ることばや行動は、受け手の子どもの心にどのように響き伝わるのだろうか。ことばのもつ影響・効果についてどのような子どもにつながるか、イメージを自由記述法により回答を求めた。

## 1) 叱りつけてばかりいると、子どもは…

- ・反発, 反抗的になる(11.8%)
- ・自己主張ができなくなる(9.3%)
- ・臆病になる(9.3%)
- ・心を閉じる(8.9%)
- ・ひねくれる(6.5%)
- ・消極的になる(5.3%)
- ・ぐれる (5.3%)
- ・やるきをなくす(4.9%)
- ・おびえる(4.9%)
- ・卑屈になる(4.9%)
- ・小心者になる(4.5%)
- ・親の顔色ばかりうかがう(4.1%)
- ・乱暴するようになる(3.7%)
- ・自分をだめと思う(2.4%)
- ・おとなしくなる(2.4%)
- ・自信をなくす(2.0%)

ほか9語(9.8%)

## 2) けなされて育つと、子どもは…

- ・自信をなくす(23.0%)
- ・卑屈になる(13.4%)
- ・ひねくれる(12.9%)
- ・いじける(10.5%)
- ・他をけなす(10.4%)
- ・だめになる(7.2%)
- ・自虐的になる(6.7%)
- ・たくましくなる(4.8%)
- ・向上心なくなる(2.9%)
- ・孤独になる(2.4%)

ほか9語(5.8%)

1), 2) いずれも伸び伸びした, 自信をもつ, 明るい, 向上心ある子どものイメージが見られないことがわかる。

## 3) ほめてあげれば、子どもは…

- ・伸びる(25.8%)
- ・また頑張る(23.4%)
- ・喜ぶ(15.9%)
- ・やる気をだす(10.5%)
- ・自信をもつ(8.1%)
- ・調子にのる(5.4%)
- ・人をほめる(2.7%)
- ・積極的になる(2.4%)
- ・やさしくなる(2.0%)
- ・素直になる(1.0%)
- ほか4語(2.8%)

## 4) 広い心で接すれば、子どもは

- ・広い心をもつ(24.6%)
- ・伸び伸びと育つ(23.9%)
- ・思いやりのある, 優しい子(17.4%)
- ・素直になる(8.7%)
- ・朗らかになる(6.4%)
- ・伸びる(3.8%)
- ・心が豊かになる(2.7%)
- ・明るくなる(1.5%)
- ・自由な人になる(1.5%)
- ・積極的になる (1.5%)
- ・何でも話すになる(1.5%)
- ・心をひらく(1.1%)

ほか13語(5.4%)

## 5) 認めてあげれば、子どもは…

- ・自信をもつ(27.3%)
- ・さらに頑張る(19.5%)
- ・伸びる(16.8%)
- ・嬉しい(7.8%)
- ・安心感をもつ(4.7%)
- ・自立する(4.3%)
- ・他人を認める(4.3%)
- ・やる気をだす(3.5%)
- ・自己肯定ができる(3.1%)
- ・自分を好きになる(2.0%)
- ・行動的になる(1.6%)
- ・伸び伸びする(1.6%)
- ほか8語(3.5%)

## 6) 守ってあげれば、子どもは…

- ・安心する(28.5%)
- ・依存・甘える(12.0%)
- ・親を信頼, 大切にする(11.3%)
- ・弱くなる(10.9%)
- ・人を守るようになる(8.4%)
- ・思いやる心(4.4%)
- ・温かみを感じる(4.4%)
- ・強くなる (4.0%)
- ・伸び伸び育つ(2.6%)
- ・愛情豊かになる(2.2%)
- ・おおらかになる(2.2%)
- ・頑張る(1.1%)
- ほか11語(8.0%)

3) ~ 6) は, 子どもの心に安心感, 人を信頼する, 自信をもつ, やる気をだす, 伸び伸びと育つ子どものイメージである。

## おわりに

親子間において, 「通じあえた」, 「気持ちが一つになった」と実感がえられるのは, 子どもが「気持ちよさそうにした」, 「満足した」, 「嬉しそうにした」, 「喜んだ」, 「おもしろ

がった」などなど、子どもの側に生じた肯定的な情動が養育者にわかった（わかち合えた）ときである。「いつも」子どものことをわかろうと努める養育者の感受性豊かな応答の対応が、子どもとの心的なつながりをつくりだしている。

親は誰でも子どもを愛している。やさしくありたい、誠実でありたい、理解ある親でありたいなど願っている。でもどうしたらそんな親になれるのか、どんなふうに子どもとコミュニケーションをとったらよいのか、どんなしつけをしたらよいのかが分からない。子どもをわざと傷つけようと思う親はいないが、知らず知らずのうちに子どもを傷つけてしまうことがある。

今回は親子交流における親のことばを中心に、受け手の子どもの心にどのように響き伝わり、どのような子どもの心を育むのか検討した。いつも親のことばの中には、身体語も加わり、時に何気なしのことばはあるが、親の意図や気持ちがたっぷりとこめられる。しかし子どもの抱く感情の種類や程度によっては、例えば、同じ「励まし」のことばはやる気にも、やる気を阻むことばにもなる。励ましているつもりが、実は「もっとやる気をだすように」という叱りと説教と同じになっている、押し付けや強制が逆にやる気を抑えているなど。また子どもに「自分からすすんで勉強しなさい」と言ったとき、送り手は言語内容に注意をむけているので自分の発した相反するメッセージ（伝えているのは自発的であれ、でも命令形である）に気づかない。

ところで肯定的メッセージは、子どもが自分の価値に目覚め、生きる勇気と自信を回復する。愛されている、認められている、広い心で接しられる、守られていると実感すること、ほめられることなど、これらの体験は親を心から信じ、自分を好きになり（肯定的な自己像）、人を愛することのできる人間に成長する。一方、否定的メッセージは、叱られる、けなされることなどが多くあると、子どもはやる気や自信を失う、反発・反抗的になる、臆病になる、心を閉ざすなど向上心は持てず、人を思いやる心は育みにくい。子ども時代に体験した親子のコミュニケーションがモデル学習され、将来親になってからの子どもとの関係に再現されるという世代連鎖がいわれる。それはやる気がなくなるように育てられた子どもは、自分の子どもを知らず知らずのうちにやる気のない子どもに育ててしまいがちということである。では好ましい親子のコミュニケーションも世代連鎖をすることであれば、肯定的メッセージが適切に子どもに伝わることに望まれてくる。

## 文 献

外山滋比古：人間におけるコミュニケーション 教育と医学 49巻6号, 4-11, 2001.

佐藤 悦子：コミュニケーションにおけるダブルバインド 教育と医学 49巻6号, 43-49, 2001.

ドロシー・ロー・ノルト, レイチャル・ハリス (石井千春訳)：子どもが育つ魔法の言葉 PHP 研究所, 2000.

長谷川博一：やる気のない子の親子関係 児童心理 55巻10号, 23-29, 2001.

桐山 雅子：何かに夢中になりすぎる子の功罪 児童心理 55巻6号, 31-35, 2001.

境野 弘子：やる気をなくさせる親の言葉 児童心理 57巻8号, 89-93, 2003.